

新型インフルエンザ発生にともなう市の対応について

メキシコで発生が確認された豚インフルエンザについて、世界保健機関（WHO）が4月28日（火）早朝に警戒水準をフェーズ4に引き上げたことを受けて、同日午前、国は「新型インフルエンザ」発生を宣言しました。

武蔵野市では、28日に「健康危機管理庁内対策本部」を立ち上げました。今後市では、2007年度に策定された武蔵野市新型インフルエンザ対策行動計画に基づき、「生活安全会議」を開催予定です。また、国内発生期を想定した全戸配布パンフレット案の作成・配布準備もすすめる予定です。

ちなみに、2009年度の市の予算としては、新型インフルエンザの発生に備えた具体的な対策として662万円組まれています。具体的には、感染を防止するために感染防護衣等の資器材や薬剤の購入・備蓄を進めることなどです。

クリーンセンター建て替え計画について

クリーンセンターは、稼動から24年が経ち、ボイラーの耐用年数とされる30年に近づきつつあります。そのため、クリーンセンター建て替えについて、「（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会」で議論が行われ、3月に『中間のまとめ』が発表されました。委員会では、「新施設の整備用地」「新施設の在り方」「新施設の周辺のまちづくり」の3点について、検討されてきました。

この『中間のまとめ』では、「整備用地」について、「これまでの蓄積の継承、活用を重視し、『現在の市役所北エリアを選択（但し域内の土地利用の全面的見直しを前提とし、行政においても横断的な調整を求める）』とするか、「『現在の市役所北エリアを選択』を相応しくないとし、これまでの経緯とあらゆるコストに関係なく『新規用地を選択』という2つの選択肢から考えるとしています。

6月に最終報告書が出される予定ですが、現在、『中間のまとめ』についてのパブリックコメントがおこなわれています。この『中間のまとめ』は、市政センター、コミセン、図書館などで配布しています。市のホームページでもご覧になれます。

意見の締め切りは5月15日（必着）です。

テーマ： 委員会の検討の在り方 新施設の在り方 新施設の整備用地の選定について、どのように考えるべきであるか

新施設がまちづくりの中で、どのような役割を果たすべきか

提出方法： A4文書の形で、氏名・住所を明記の上、郵送・FAX・メール
もしくは直接持参

送付先： 〒180-0012 緑町3-1-5 武蔵野クリーンセンター
FAX 51-9194

メール cnt-clean@city.musashino.lg.jp